



## 悩みながら、前進——三人の子育て

関西学院大学応用心理科学研究センター 博士研究員

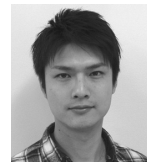
滋慶医療科学大学院大学医療管理学研究科 助教

**村山 綾** (むらやま あや)



2008年、大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士(人間科学)。2011年より現職。専門は社会心理学、特に集団コミュニケーション。

**岡 耕平** (おか こうへい)



2007年、大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(人間科学)。2011年より現職。専門は認知心理学、特別支援教育、人間工学。

### 保育園1年目は病気になるのがあたりまえ(村山綾)

2011年の4月から研究生活に復帰し、それと同時に2歳児クラスの長男と0歳児クラスの次男、三男(一卵性双生児)は保育園に通うことになりました。当初は三人の子どもたちの保育園がバラバラ(うち長男は認可外)になってしまい、送り迎えや園に応じた登園準備などで大変でした。さらには三カ所に散った子どもたちがそれぞれの保育園で病気をもらってきて、大人もたびたび罹患しました。保育園の先生からは「こんなに仕事を休んで、クビにならないのか」とまで言われました。見えざる敵との戦いに精神的に追いつめられながらも、何とか論文を書いたり実験をしたりしました。そんな中、サポートしていただいた応用心理科学研究センターの同僚や文学部総合心理科学科の先生方には感謝してもしきれません。

2012年度になるとバラバラだった保育園も一カ所になり、病気をする回数は劇的に少なくなりました。たとえば、次男は2011年度に合計47日病気で欠席しましたが、2012年度は1月末時点で計5日です。毎月のように小児科の待合室で挨拶を交わしていた保育園の同じクラスの保護者の話を聞いても、我が家と全く同じようでした。振り返れば「そういうことか」とわかるのですが、その渦中にいるときは本当に必死で、どうしようもならないことをどうにかしようと頑張り、結果、夫婦ともに疲

労困憊の日々でした。これから子どもを産み育てる皆さん、子どもは病気になるものです。そしてその後、必ず強くなっていきます。

子どもたちが病気になったタイミングで、「周囲に迷惑もかけるし、子どもにも十分に関わっていない(ような気がする)状況で、この生活を続ける意味があるのか」と弱気になり、いじけることがあります。そのたびに周囲の皆さんから励まされてきました。そしてもう少しだけ頑張ってみよう、前を向いて立ち上がります。何も子育てに限らず、人生とはこれの繰り返しのようにも思います。両立できているかは正直わかりませんが、私にとっては研究も子育ても、生活の一部です。

### 全てを充実させることは難しい(岡耕平)

我が家とともに実家から遠く、実質夫婦二人で子育てをしています。家事も育児も夫婦で一緒に半分ずつです。育児はとても楽しいものですが、正直いってとてもつらいものもあります。周囲は「双子だと一度に育ててあとが楽」「後から振り返れば今がいちばん楽しい時期」など言ってくれますが、全く心に響きません。保育園に預けだした頃は、3日に1度は誰かが病気になって園から迎えに来るよう呼び出され、仕事をするのが大変でした。病児保育や公的・私的な保育サービスにも登録しましたが、身近に利用できるものの中には、実質的に活用できるものはありませんでした。子ども

が一人なら使えるサービスも、二人、三人となると途端に使いがなくなるのです。そのため職場にベビーベッドを据えて子どもをあやしながら仕事をしたり、子どもを抱えて教授会に出たりしたこともあります。共働きで子育てするのに必要なのは、精神的な支援よりも実質的な支援だと痛感しました。職場や支援をしてくださった皆様には本当に感謝しています。

今はただ、子どもを育てること、生活を支えること、家事をすること、研究業績を出すこと、それらに必死です。けれどもいずれも中途半端で、そのことでまたストレスがたまります。自分が研究者として生きていけるのか、毎日悩みます。

### 最後に

私どもはまだまだ子育ての真っ最中で、振り返ることなどほとんどできない状況ですが、子どもたちはたくましく育っているようにも思います。4歳になった長男は、父と母があまりにも保育園の準備の忘れ物をするので、「じぶんでチェックする!」と言い始め、持ち物を自ら確認するようになりました(ちなみに昨日は水筒を忘れていることを指摘されました)。

昨日も今日も、そしておそらく明日も、朝起きてから寝るまで本当にめまぐるしい日々です。ただ、こんな状況でもどうにか(少なくとも2年間)家族五人無事に暮らしています。これからも問題はたくさん出てくるでしょうが、家族で協力して、ともに成長していきたいものです。